

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 10章30-35 (新約聖書125頁)

ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追い剥ぎに襲われた。追い剥ぎたちはその人の服を剥ぎ取り、殴りつけ、瀕死の状態にして逃げ去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、反対側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、反対側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、その場所に来ると、その人を見て気の毒に思い、近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。「この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。」

“まさか”の問いかけ

夏休み前の礼拝で「夏休み、あなたも偶然サマリア人に会うかもしれません」とお話ししました。追いはぎに襲われた人が助けられたように、この夏、サマリア人のような人との偶然な出会いがあったでしょうか。旅先で、アニメや映画の中で、歌の世界で、舞台、物語のシーン、スポーツの試合やコンテスト、ボランティアの体験などでサマリア人のような人に出会いましたか。

私は高校生の頃から二十代終わりまで学生時代の夏の体験は、神様からの賜物、恵みだと感謝しています。それは過去のことではなく、今も心の深いところにあって未知のものへ触れる時の勇気になっていると感じています。でもそれは楽しい記憶ばかりではありません。もう一度人生をやり直したいと悩み続けた夏もありました。

きっと神様が夏のあいだ「ちょっと立ち止まりなさい」、「自分をふり返ってみなさい」、「本当にそれでいいのか」と問いかけていたのだと思います。自分にとって出口の見えなかったことも必要だった、大切な夏だったと思っています。そして面白いことに神様の問いかけは滞ることなく、河の流れのように綿々と続くことです。主が共におられると感じる恵みの時です。

人生は“まさか”、“まさか”の連続です。予測できない偶然の連続です。誰にもわからない、不思議な、信じられない出会いや関わりの連続です。それは自分では願えない、願う以上の、必要な、大切なものを、主があなたに与えようとしているからです。夏が過ぎても“まさか”の問いかけは続きます。共に“まさか”の問いかけを通して、学び続けましょう。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、厳しい暑さが続く夏休みも終わり、再び始業の時を迎えました。今年の夏は戦後80年が経ち、多くの人々が平和への願いを新にしました。どうか私たちが平和の器として用いてください。また学校を、家庭を離れ、新たな学びや体験を通して感じ、考えたことが、苦しみと絶望の中にある人々の希望へとつながりますように導いてください。もうすぐ英和祭を迎えます。準備する英和生たちの上に祝福と導きをお与えください。そして特に心身に困難をかかえる方々がひと時でも早く回復の時を迎え、ご家族と共に喜びと感謝を献げる日を迎えることができますように励ましてください。新しい学びの日々もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン